

かずさの博物誌

ジョウビタキ

～身近では最も美しい冬の小鳥～

文・写真／成田篤彦

2014.2.20

©成田篤彦



▲ジョウビタキの雄 アンテナで鳴く
＝2013年11月7日 木更津市

昨年、十一月初旬の朝、「ヒイ、ヒイ、カッ、カッ、カッ、カッ」と金属音で、透き通るような鳴き声がする。「ジョウビタキか？」と急いで、外へ出ると電線に止まっていた。つばさが黒く、白紋がある。頭が銀色を帯びた灰色だ。胸があざやかな赤褐色。ジョウビタキの雄だ。

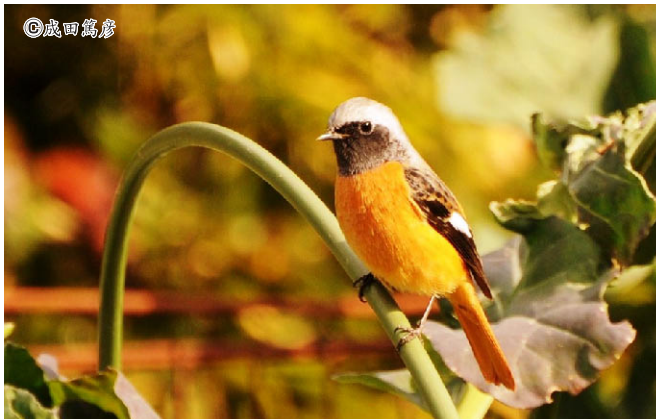
「あ！今年もやってきたか？」と嬉しくなった。彼はおじきをするように頭をさげ、尾を細かく振りながら、さかんに鳴く。

その後、ナンテンの実のそばのフェンスの上に止まった。しかし、私をみるとすごいスピードで飛び去っていった。すると目前のお隣のテレビアンテナに止まっていた。

その後何度か彼の声を聞いたが、両隣の庭と続いているので、残念なことにと、私の庭はただ通過するだけのことが多いようだ。

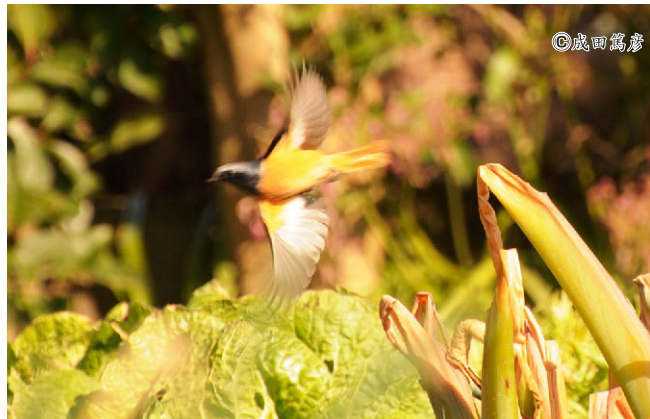
さて、近所には家庭菜園が所々にあり、ハクサイやネギやコマツナを植えている。そこにジョウビタキの雄がなわばりを構えている。好奇心が強いせいか、侵入する私に近寄ってくる。そのため、他の小鳥よりもずっと近づける。

©成田篤彦



▲家庭菜園のジョウビタキの雄＝2010年1月18日 木更津市

©成田篤彦



▲飛ぶジョウビタキの雄＝2010年1月18日 木更津市

また、自宅から小櫃川まで行く途中、庭木や川沿いのヨシ原や公園の梅の木などでよく見られる。

ところで、野鳥観察会で「毎年、ジョウビタキが庭に来るの、いいわね」と野鳥好きな熟年の方がうらやましそうに話された。その意味は良く分かる。人家の周りで見られる小鳥の中では最も美しい上に可愛いからだ。しかし、内心

©成田篤彦



▲土手にいたジョウビタキの雌
＝2010年2月21日 木更津市

意外であった。上総の市街地には大きな公園もあり、小規模の家庭菜園や畑もあちこちにある。注意していれば、どこでも見られるはずと思いついでいた。しかし、彼らは川に沿って移動すると聞いたこともある。自宅は川に近いから、来ているのかもしれない。彼らの訪れる環境は思いのほかに限定されているのだろうか？

それにしても、毎年、必ず、色鮮やかなジョウビタキが庭にやってくるのは野鳥好きにはありがたい巡り合せだ。

©成田篤彦



▲梅の木にとまるジョウビタキの雌＝2014年2月5日 木更津市

memo

ジョウビタキ

スズメ目ヒタキ科

全長約15cm。バイカル湖から沿海州、中国東北部、チベット南部、サハリン、千島列島、朝鮮半島で繁殖。日本、台湾、中国南部、インドシナ半島などに渡り越冬する。日本では本州以南に渡来する冬鳥。上総には十〜十一月頃に渡来し、主に、平地や山地の明るい林や耕地、市街地の公園などにすむ。

また、俳句ではヒタキといえ、ジョウビタキをさし、数多くの名歌があり、胸の色があざやかで美しく色鳥の代表格である。

参考文献：千葉県の保護上重要な野生生物二〇一一年 千葉県